

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第857号 平成26年12月26日

## 好きな車に乗りたかった

先月（11月）道内各地で自動車窃盗等を繰り返したとして、16歳から23歳の男女15人が逮捕されるという事件が、発生し、その手口の大胆さと、被害額の多さに驚かされました。

15人の逮捕容疑は、2013年（平成25年）8月から今年の7月にかけて、札幌、旭川、北見、小樽、岩見沢の5市の中古車販売店等で自動車窃盗等9件を繰り返し、乗用車と現金約53万円等総額約1470万円相当を盗んだ疑いで、逮捕された少年等は「好きな車に乗りたかった」等と供述しているそうです（11月8日付北海道新聞から）。

また道警は、供述等から、被害は函館や釧路等17市町村で約200件、総額7千万円相当に上るとみて調べているとの事です。

少年等は、中古車販売店等の情報をインターネットで調べた上で、無料通信アプリのLINE上で仲間同士の打ち合わせを行い、犯行を繰り返していたというもので、その犯行スタイルは、非常に計画的であると同時に、如何にも現代的といえるでしょう。

また、犯行動機として「好きな車に乗りたかった」という供述があるようですが、他人の物であろうと自分が気に入った物なら何でも欲しがるというのは、少年達の頭の中はまるで赤ん坊と一緒にいわざるを得ません。

現代社会に蔓延<sup>はびこ</sup>る大きな社会問題の一つとして万引きの横行がありますが、これも、事の善悪の判断能力と、自分の行動を抑制する力が欠如しているためだと思われます。

「欲しいけれども他人の物だから我慢する」という至極当たり前の事であっても、子ども段階からしっかりと教え込まなければならないという事です。

11月25日付の北海道新聞の社説に「高校版『道徳』はいらぬ」と題する社説が掲載されています。

その論旨は、規範意識や公共心は重要だし、若い内に身に付けて置くべきだという考えに異論はないが、それは学校の授業で教えられるより、友人や家族との人間関係や地域との関わりの中で養われるのが自然だ、というものです。

友人や家族との人間関係や地域との関わりの中で、規範意識や公共心が養われる

という側面を否定はしませんが、しかし、だから学校での道徳教育は不要というのは余りにも楽観的ではないでしょうか。家庭や地域の教育力の低下が指摘されている今日だからこそ、学校教育が果たすべき役割はますます重要になっていると私は考えます。

また我々が注目しなければならない事は、今回の事件でも明らかになっているように、犯罪にLINE等のコミュニケーションツールが多用されている事です。

昨今、振り込め詐欺等の特殊詐欺被害が過去最悪のペースで増えていますが、こうした犯罪の中には、仲間や受け子の募集に若者に普及しているLINEが使用されているケースがあり、このLINEを通して未成年者が事件に巻き込まれるケースも少なくありません（11月25日付北海道新聞等から）。

もしも、善悪の判断能力のない者に銃器を自由に持たせていたらどういう事になるでしょうか。きっとその街の住民は怯えて暮らす事になるでしょう。インターネットはコミュニケーションの道具で銃器とは勿論違いますが、如何に便利な道具であっても、悪意を持って使用すれば、それは犯罪者にとって極めて強力な武器になるという現実を、私達は直視しなければなりません。

こうした状況の中、各学校においてはこれまでも情報教育に取り組んでいただいています。情報へのアクセスや活用が適切に行われるよう、その質的向上になお一層努力すると共に、家庭や地域と連携しながら、子ども達に規範意識がしっかりと身に付くよう、道徳教育にも積極的に取り組んでいただきたいと思います。

（塾頭：吉田 洋一）